

## 春岡村の伝説

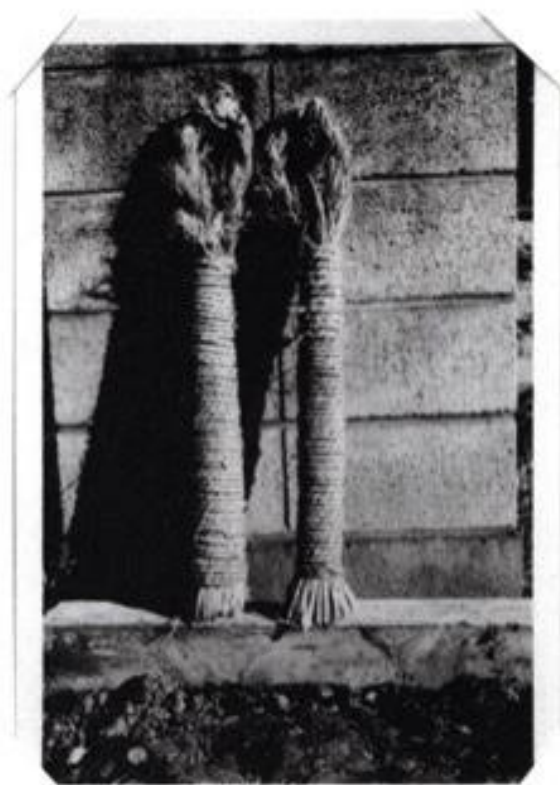
### 春岡村の11月

十日夜 とうかんや (旧暦10月10日)

「十日夜」は秋のとり入れも終わった旧暦10月10日の晩、収穫を感謝して行われる秋の行事です。おはぎを作ってお稲荷さまや藁束に供えます。子どもたちは、今年採れたワラと縄で作った藁鉄砲を手に、農家の庭先をまわり、十日夜の唄を大声で唱えながら、藁鉄砲を地面に思いきり叩きつけます。家々ではおはぎを用意して子どもたちを待っています。この日子どもたちは甘いおはぎをお腹いっぱい食べられます。日本版ハロウィンですね。畑のもぐらやねずみは、叩きつける音で逃げ、大根畑で鳴らすと、大根が抜け出ると言われました。また、叩きつけたワラで翌年キュウリの手立てを立てると、素直なキュウリができるとか。藁鉄砲をカキの木に架けると、翌年沢山実になるといわれて、カキの木にぶら下げたなあと、丸ヶ崎新田の人(昭和26年生まれ)が言っていました。

藁鉄砲は、子どもたちが自分で作ります。叩きつけたときポーン、ポーンといい音が出るように、サトイモの茎を芯にワラで巻き、縄でらせん状にぐるぐる硬く巻いて筒状にして取っ手をつけます。

中国では旧暦の10月は亥の月で、亥の月、亥の日、亥の刻(21時~23時)に餅を食すと病気をしない、という考えが古くからあり、それが日本に伝わったとも言われています。さらに、古代中国の陰陽五行説で亥は「水」にあたるので、火に強いとされていました。そのため「亥の月、亥の日から火を使い始めると安全」と言われ、昔はこの日にこたつを出したり、囲炉裏に火を入れたりする「こたつ開き」「炉開き」をしたそうです。ちなみに今年の亥の日は11月6日です。



子どもたちが作ったという藁鉄砲

#### ▶十日夜の唄

「とーかんやの ぼーたもち なまでもいいから もーってこい」(深作)

「とおかんやとおかんや とおかんやのぼたもち 生でもいいから 釜ごと背負って来い」(桜区道場)

「とおかんやとおかんや とおかんやのモチは イノコのボタ餅 生でもいいから 釜ごとしょってこい」(桜区大久保領家)

(参考「思い出の春岡」「埼玉の民俗 年中行事」「農耕と伝承の歳時記」)

東三番街 平山由喜